

「時代の変化に対応した利用しやすい統計をめざして」 —第43回 全国統計大会、佐賀県で開催—

第43回全国統計大会が10月22日佐賀県佐賀市の文化会館において、全国の統計関係者約2,500名の出席を得て盛大に開催されました。

全国統計大会は、我が国の統計の進歩発展と統計思想の普及啓蒙に資するため行われており、今回も統計功労者や第40回統計グラフ全国コンクールにおける入選者の表彰が行われました。

最後に、国民の理解と協力を求めながら統計の重要な使命を達成するため、「時代の変化に対応した利用しやすい統計をめざして」の大会宣言が満場の拍手をもって採択され閉幕しました。

大会に参加された方の中から、3名の方に感想を寄せていただきましたので御紹介します。



全国統計大会の今昔

（財）全国統計協会連合会参与
(元茨城県調査課長)

村田 真道

私は本年佐賀県で開催された全国統計大会に、前田統計課長さんをはじめ統計課の皆さんと同行させていただき、しばらくぶりに全国大会に参加させていただきました。

私が在職中の方は、ほとんど物故され、または統計の関係を離れられて、特に期待しておりました広島県のOBの課長さんの姿も見られなかったということで、非常に寂しさが感じられました。

しかし一方、現在全国統計協会連合会の会長をなさっておられる後藤正夫さんは、私の茨城県の課長時代には宮城県の課長さんをなさっておられた、いわば同輩でした。その課長さんが現在では参議院議員、閣僚にもなられて、全国統計協会の会長になられ、当大会に御挨拶をいただくとともに、親しくお目にかかることができて、私は在職中を思い出してしみじみ懐かしさを感じた次第です。

何れにしても、私は84歳になる今日ですが、こうやって全国統計大会に臨席させていただき、関係者の皆様方にお目にかかることができましたことを非常に嬉しく思っております。

と同時に、第1回の全国統計大会(昭和25年)を振り返って思い出しておりますが、それは戦後第1回の国勢調査が終わった12月の5日と記憶しております。その時には、東京で大会が開かれ、全国の関係者が1,500名も神田の共立講堂に参集され、大内兵衛会長、美濃部亮吉副会長の御両名からそれぞれ、挨拶と講演をいただき、また当時統計局長をやっておられた茨城県とは非常に関係深い森田優三先



生の講演もいただいたと思っております。大内会長さんは、当時の総理大臣の吉田茂さんとは、おれ・おまえの間柄の関係がある東大の同級生とかで、非常に親しい間柄だったのでしょうか、当日は都合が悪くて臨席はされませんでしたが、非常に優渥なるあたたかい挨拶文を寄せていたただいたことをしみじみと思い出しています。この大会は非常に盛会で関係者一同感銘を深くしました。

そしてその翌日、各県の代表者が宮中に参内して、陛下から、「統計関係者として非常に御苦労である。しっかりやつてほしい。」というお言葉をいただいたということも聞いております。私は、当然課長でありましたから宮中に参内できる立場でありましたが、課長補佐の山中平守さんに参内を譲りました。その山中さんは、統計が永くて19年も統計課に勤務され、今はすでにこの世にはありませんが、ほんとうにありがたかった、陛下から親しくお言葉をいただいたということは、統計人ならでは、当時としては他の課ではこのような機会がなかった、ということで非常に本人も感激し、私もよかったですなと思っております。

この第1回の大会が契機となって、私の在職中に第4回まで関係したと記憶しております。第2回以降は、奈良県、島根県、宮城県と続き、さらに私が統計を離れる寸前に計画されていたのが徳島県であったかと記憶しております。徳島の統計大会があった時には、すでに調査課長の職を離れており、生活課長になっておりましたが、統計に功労があったということで大会の席上、大内会長から感謝状を自らお手渡しを受けたことを今もって感激しつつ思い出しております。

これが、私の統計課とのお別れの時になったというわけでございますが、当時大内会長自ら、「全国統計協会連合会の参与として何か協力をせよ。」というようなお言葉をいただいたことが、統計に対する思い入れとなって、現在でも

参与の肩書で統計大会には事情の許すかぎり参加させていただいておる次第です。

いろいろと当時のことを思い出しまして、統計に対するなつかしさは年を経るごとに深くなつてまいりました。現

在も統計課にうるさいようにお邪魔させていただいて、統計のことやら統計に関係する方々のお仕事をお聞きしては、私の人生の一コマ、指針とするようなことに務めております。

統計関係者の益々のご発展を念じて筆を置きます。



感銘受けた 笹沢左保氏の講演

常陸太田市企画課

井 上 美 江

平成4年度の全国統計大会が佐賀県で開催された。一度も行ったことのない佐賀県、それでも思い出されることはいろいろあります。

茨城国体が昭和49年に笠松運動公園をメイン会場として開催され、昭和天皇を目のあたりにしたとき、次の次の国体会場が佐賀県であったことから、佐賀国体関係者の団体がスタンドに陣取っていたこと。そして一世を風びしたおしんの舞台となった土地、吉野ヶ里遺跡、焼物の里 etc. …。それ以上の予備知識なしで羽田を飛び立ち、あっという間に福岡空港に到着しました。

大会会場の佐賀市文化会館は三階建の立派な建物で、正面玄関にしつらえられた「第43回全国統計大会」のアーチの前に立った時は各関係者の御苦労を思うと同時に、やはりちょっとした感激を覚えました。

しかし、世に名のつくいわゆる「大会」の多くが殆んど

セレモニーに終始することは覚悟していても、あまりにもワンパターンの進行に少し退屈を感じたのは、ひとりのみであろうかと、ひそかに思いました。

ところで、期待していた作家笹沢左保氏の講演の演題は、「統計では出ないこたえ」でした。

最初、軽妙な語り口に反し、ありきたりの話で少々退屈したが、最後の一言で演題を再確認させられるという意外性に、さすが流行作家の感をいただきました。

氏がたまたま受けた検査の結果、体内に病変ポリープが発見されたこと、それに伴なっての定期検診でガンが早期発見され、その後の適切な療法によって幸にして今日命を保っていること。そしておどろくべき結果として現在生きながらえている理由を統計は示唆したであろうか。ということばを耳にした時、統計は作り方によって結果が左右されるという常識を思い起こし、これからはこの大事なことを念頭におき、いかにして正確で市民に信頼される統計作業に従事すべきか心引き締まる思いで講演を聴き、大切に頭にしまいこんで大会会場を後にした次第です。

終わりに、本大会に参加させていただきました関係各位に御礼を申し上げます。

じめ関係者各位の顕彰がされたことは、誠に意義深いものと存じ上げます。

ところで、私が在住する地は、政府関係機関の移転等に伴い近年都市化が進み、各種の統計調査が困難を極めているところであります。私自身、昭和46年に統計調査員を拝命し今日まで微力ながら手伝わせていただいておりますが、前述の状況や社会情勢の変化に伴い年々統計調査を取り巻く環境が複雑且つ悪化しているよう思慮しているところであります。しかし、過般の大会に参加し、改めて懸命に努力されている全国の統計調査員さんのご活躍等に感銘し、これまでの気持ちを一新した次第であります。

今後は、統計調査の重要性を懐思つつ新たな決意のもと、ご指導を賜りながら統計調査に従事していきたいと思います。

最後になりましたが、統計調査の益々のご発展と関係者各位のご健勝をご祈念し、私の感想をいたします。



“統計調査に新たな決意、 —第43回全国統計大会に参加して—

つくば市統計調査員連絡協議会
会長 中根 直衛

萩こぼるる秋空の好季に、第43回全国統計大会が関係者各位のご努力により、厳粛且つ盛大に開催されましたこと誠におめでとうございました。また、私自身、この機会に参加できましたこと身に余る光栄と存じておる次第であります。

主催者のお言葉もありましたように、統計調査は国内外の社会情勢の変化を的確に把握するための大切な事業であります。残念ながら一般国民の理解等につきましては、未だ一部浸透されていないのが現状だと思います。

そのような中、本大会におかれまして、統計調査員をは